



まつざき真琴 県議会ニュース

日本共産党

2014年
10月12日号

発行/日本共産党鹿児島県議団
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 TEL/FAX 286-3977
E-mail kengidan@jcp-kagoshima.com HP <http://jcp-kagoshima.com>
Facebook ページ『日本共産党鹿児島県議団』への 「いいね!」をお願いします。



9月議会終わる

9月議会が終わりました。一般質問や常任委員会で行った問題について、順次お知らせします。ご意見やご要望をお聞かせください。

原発問題

まつざき県議「『世界最高レベルの基準』発言の根拠を示せ」

知事「田中委員長の発言を信じたい」

まつざき真琴県議は、一般質問で、川内原発の再稼働の問題を取り上げました。

川内原発の再稼働について、規制委員会において、新しい規制基準にもとづく適合審査が行われ、「合格」とされています。この新規制基準は、福島第1原発の事故の検証もおこなえない中で作られた基準です。

EUで導入されている溶融炉心を貯留・冷却するコアキャッチャーや格納容器熱除去設備、大型商用航空機の衝突にたいしても耐えられる原子炉格納容器の二重化もありません。また、EUでは電源など独立した4系統を義務付けているのに、日本では2系統だけでよいとされています。

このように、日本の規制基準が、世界最高レベルでないことは、明らかです。

まつざき県議は、知事が「世界最高レベルの基準」と発言していることについて、その根拠を尋ねました。

まつざき県議「火山の噴火の予知はできない。適合審査はやり直すべき。」

川内原発は、世界でも類のないいくつもの巨大火山カルデラに囲まれた原発です。九州電力は、「川内原発の運用中に破局的噴火が起こる可能性は極めて低い」「火山噴火はモニタリングで予知できる」としています。

しかし、火山噴火予知連絡会の藤井敏嗣会長をはじめ、何人もの火山の専門家が、「現在の火山学のレベルでは、噴火の予知はできない」と発言しています。まつざき県議は、口永良部島や御嶽山の噴火の予知ができなかった事実を示し、九州電力には「火山噴火の予知ができるという見解は誤りではないか」と問題を指摘し、県には「少なくとも、火山噴火の影響について、適合審査をやり直すよう規制委員会に要請すべき」と迫りました。

九州電力は、マグマだまりや噴火履歴などで「前兆現象を捉えられる」との見解をくりかえし、県もこの立場を支持しました。

●知事への再質問

知事は、新規制基準が、世界最高レベルでないことは、よくご存知でしょう。4月の国会で、参考人として出席した船橋晴俊・法政大学社会学部教授は、安倍首相が「世界で最も厳しい水準」と強調する日本の原発の新規制基準について、「欧州と比べても明確に劣っている。これを『世界最高水準』というのは錯覚か、無知、ウソをついているかだ。政府関係者に使って欲しくない。」と厳しく批判しました。

知事は、なぜ、「世界最高レベル」という言葉を使われるのか、お答えください。

●知事の答弁

「世界最高水準の基準である。」これは規制委員会の田中委員長の御発言であります。専門家の意見を聞くのが一番妥当ではないかと考えております。(略) 私としては、田中委員長の発言を信じたいと思います。

『ストップ川内原発再稼働9.28全国集会』に参加するまつざき県議

